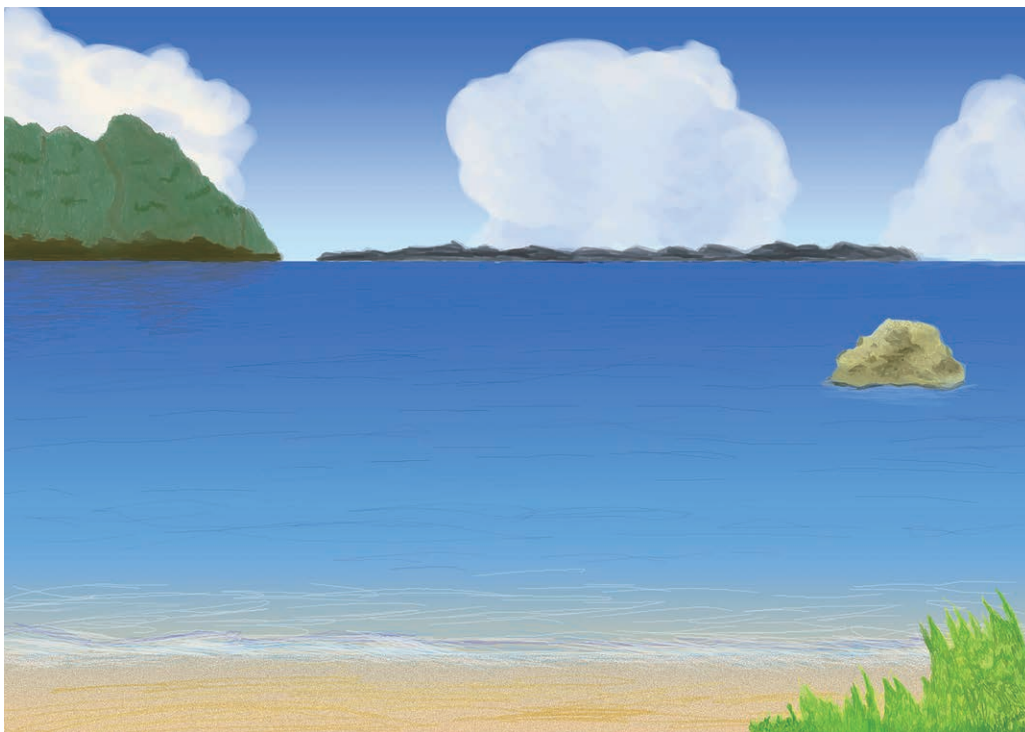


TOPPAN



TOPPAN STORY

Vol.
100

トッパン・ストーリー

第177期 株主通信

（2022年4月1日から2023年3月31日まで）

CONTENTS

連結財務ハイライト	2
株主の皆さまへ	3
特集	4
TOPPAN 6months	6

セグメント別概況	8
株式情報・会社概要	10
株主メモ・Information	11

連結財務ハイライト

1株当たり株主配当金
〔年間〕

46円

(中間配当金 22円)
(期末配当金 24円)

年間配当金につきましては、
1株当たり46円となります。

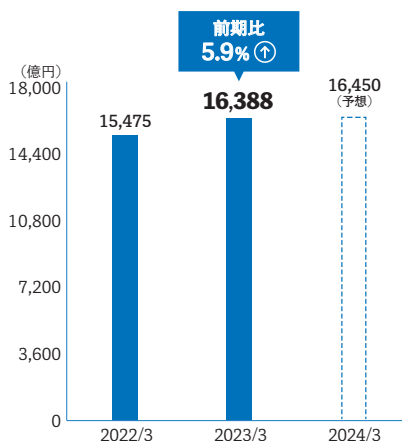
詳細は、IR情報ウェブサイトをご覧ください。



<https://www.toppan.co.jp/ir/>

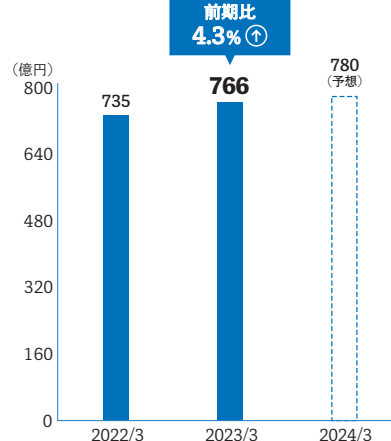
■売上高

16,388
億円



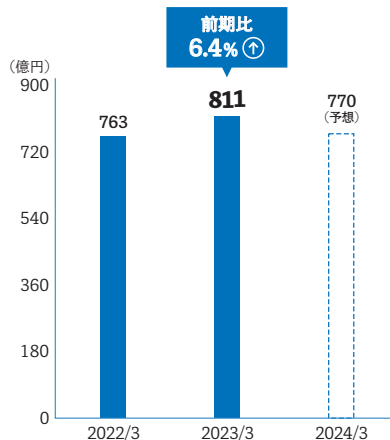
■営業利益

766
億円



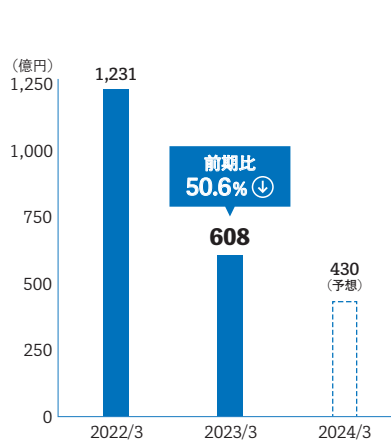
■経常利益

811
億円



■親会社株主に
帰属する当期純利益

608
億円



株主の皆さまへ

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2023年3月期(第177期)のトッパングループの決算が終了いたしましたので、ここにご報告申し上げます。

当期におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和されるなど、持ち直しの動きがみられた一方、ウクライナ侵攻の長期化に伴うサプライチェーンの混乱や資源価格の高騰、急激な為替変動など、先行き不透明な状況が続きました。

当社グループを取り巻く環境におきましては、情報媒体のデジタルシフトによるペーパーメディアの需要減少のほか、原材料の供給面での制約や価格高騰など厳しい経営環境が続きましたが、生活様式の変化に伴うデジタル需要の増加や地球環境に対する意識の高まりなど、新たな需要が見込まれています。

このような環境のなかで当社グループは、「Digital & Sustainable Transformation」をキーコンセプトに、社会やお客さま、トッパングループのビジネスを、デジタルを起点として変革させる「DX」と、事業を通じた社会的課題の解決とともに持続可能性を重視した経営をめざす「SX」を柱に、ワールドワイドで社会課題の解決をめざしています。また、ESGへの取り組み深化としては、気候関連財務情報開示タスクフォースに基づく情報開示の継続や、SDGs対応の強化などを推進してまいりました。

以上の結果、2023年3月期の連結売上高は前期比5.9%増の1兆6,388億円、連結営業利益は4.3%増の766億円となりました。また、連結経常利益は6.4%増の811億円、親会社株主に帰属する当期純利益は50.6%減の608億円となりました。なお、期末配当金は1株当たり

24円とし、年間配当金は1株当たり46円とさせていただきます。

当社グループでは、本年度から2025年度までの3年間を対象とする新たな中期経営計画を策定し、これまでの基盤構築フェーズから成果獲得フェーズへと移行

します。今回のフェーズを「変革と深化の加速期」と位置づけ、事業ポートフォリオの変革による経済的価値とESGの取り組み深化による社会的価値の両方の価値創出を行い、企業価値最大化に向けた取り組みをスピードアップさせてまいります。

また、本年10月より持株会社制への移行により、「TOPPANホールディングス株式会社」が発足いたします。ここでは、グループシナジーの最大化、グループガバナンス強化を通じた経営資源の最適配分、迅速な意思決定を可能とする経営体制への進化を進めてまいります。トッパングループの強みを掛け合わせることで、社会的価値創造企業としてさらなる成長をめざしてまいります。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2023年6月



代表取締役社長 麿 秀晴

「トッパングループ新中期経営計画」概要

トッパンは、新たに2023年度を初年度とする「トッパングループ新中期経営計画」(2023年4月～2026年3月)を策定しました。前中期経営計画の基盤構築フェーズからさらなる成長に向けた成果獲得フェーズへと移行し、事業変革を図るとともに、引き続き、“Digital & Sustainable Transformation”をキーワードに、「DX(デジタル・トランスフォーメーション)」と「SX(サステナブル・トランスフォーメーション)」によってワールドワイドで社会課題を解決するリーディングカンパニーをめざし、持続可能な社会の実現と企業価値向上に取り組めます。今回は、新中期経営計画の概要についてご紹介します。

トッパングループのめざす姿

Digital (DX) & Sustainable (SX)
Transformation

「DX」と「SX」によってワールドワイドで社会課題を解決するリーディングカンパニーに

重点戦略

①基本方針

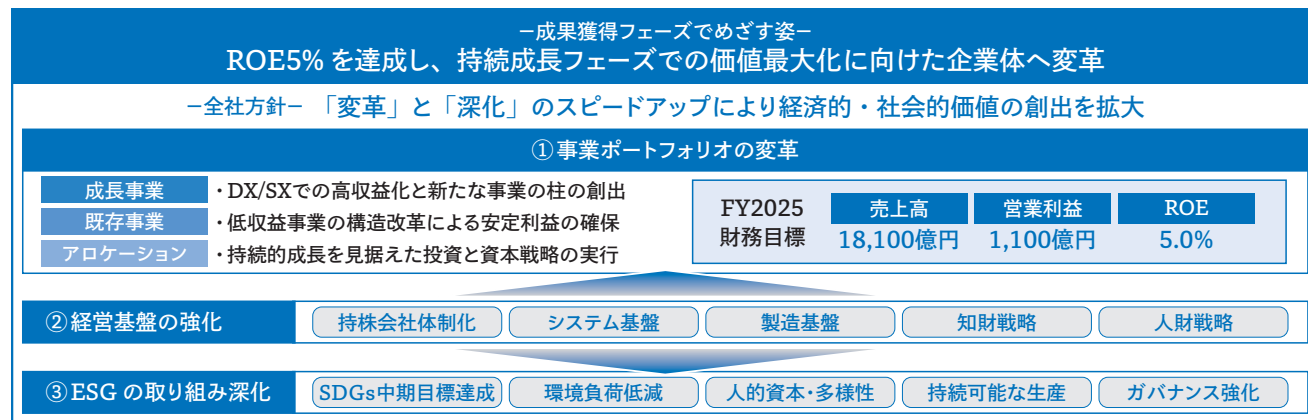
前中期経営計画では、重点施策であるDX事業への転換と海外生活系事業の拡大が計画通り進展しました。新中期経営計画では、事業ベースでのROE5%を達成し、次期中期経営計画以降でのROE8%の実現につなげていきます。

基盤構築フェーズで進めてきた施策の成果出しと成長

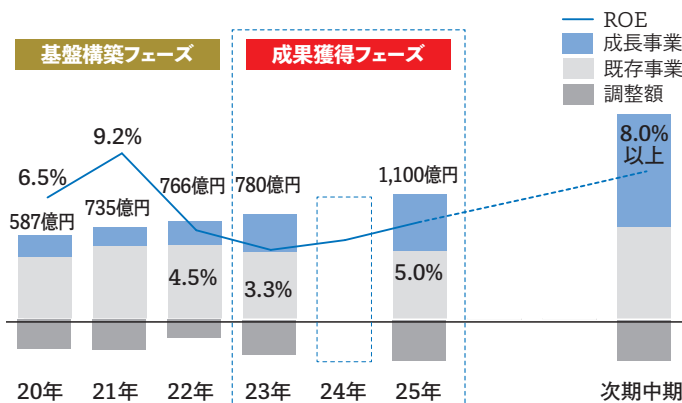
事業への経営リソースシフトをさらに進め、DX、国内SX・海外生活系、フロンティア事業で営業利益の50%以上を占める収益構造を実現させていきます。

DX事業では、デジタル技術と高度なオペレーションノウハウを掛け合わせ、データ活用による付加価値提供を含めたサイクル型のビジネスモデルを確立します。

■新中期経営計画の成果獲得フェーズの全体像



■ 成果獲得フェーズにおける営業利益とROEの見通し



また、国内SX・海外生活系事業では、脱炭素社会、循環型社会の実現に向けた環境ソリューションの提供をより積極的に推進し、サステナブル包材やGL BARRIERの提供拡大により高収益化をめざします。

エレクトロニクス事業では、IoTを支える先端部材パートナーとしてのゆるぎない存在感を高め、FC-BGA、フォトマスクの技術開発と生産体制の強化を図ります。

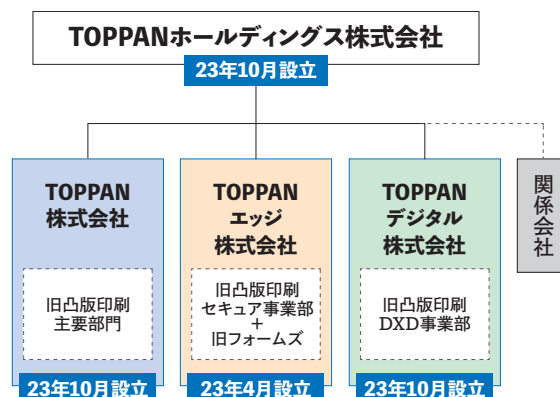
フロンティア事業では、競争優位を有するビジネスモデル、テクノロジーを核に有望市場での事業化を加速させ、ヘルスケア、メタバース、センサー関連などの領域で次世代技術を見据えた事業開発により着実な収益化を実現します。

②グループ経営

2023年4月にTOPPANエッジ株式会社が発足、具体的な事業シナジー創出による成果の獲得を進めていきます。また10月の持株会社制移行に向けては、持株会社商号を「TOPPANホールディングス株式会社」とし、組織、ガバナンスの詳細設計等の課題への対応を進めています。

持株会社発足後の10月以降、独立系関係会社の位置づけやガバナンス方法、TOPPAN株式会社とTOPPANエッジ

■ 持株会社体制図



株式会社におけるエリア事業部の最適推進体制の構築に向け取り組んでいきます。

資本戦略

●基本的な考え方

すべてのステークホルダーとともに持続的な社会を実現することを長期的目標に据え、持続的な成長を支える財務戦略を展開します。健全な財務基盤と積極投資の両立を方針とし、収益性と資本効率の向上をめざします。

●キャピタルアロケーション

DX、SX領域を中心とした成長投資と構造改革の実施を通じて経営基盤を強化し、また、資本効率向上を目的に資産売却資金を原資に3年間で1,000億円の自己株式取得を実施していきます。総還元性向は30%以上を実現し、政策保有株式を連結純資産比率で15%以下に縮減を進めていきます。なお、本中期経営計画期間では、自己株式の取得を行うことから、総還元性向は50%以上を想定しています。

新中期経営計画の詳細は、当社ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.toppan.co.jp/ir/>

2022 / 10 → 2023 / 3月

- 10月 7日** 地域通貨と情報発信をアプリで一元管理 1
- 10月 11日** レトルト対応の紙製スタンディングパウチを開発
- 10月 12日** CO₂排出量算定システムの第三者認証を多品種で取得へ ESG
- 10月 13日** バーチャルモールアプリ「メタパ®」内に「メタパーク™」をオープン 2
- 10月 20日** 欧州系建材材事業会社Decotecを統合
- 10月 26日** 「可能性アートプロジェクト」でメセナアワード2022「メセナ大賞」を受賞 3 ESG
- 11月 11日** 明治期から昭和初期の手書き文字を解読するAI-OCRを日本で初めて開発
- 12月 5日** 軽量・薄膜のマルチバンド対応ミリ波吸収体を開発 4
- 12月 19日** 遮光特性を持つ車載用「黒色」調光フィルムを開発
- 1月 18日** 「2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)」に協賛



1



2



3

2022年12月19日発表

遮光特性を持つ車載用「黒色」調光フィルムを開発

当社は、このたび、スイッチひとつで透明と不透明を瞬時に切り替えられる液晶調光フィルム「LC MAGIC™」(エルシーマジック、2016年より提供)の新グレード「ノーマルブラック」を開発しました。電源OFF時に可視光線を95%遮り、可視光線透過率「5%」の「黒色」となり、高級な質感のデザインにマッチします。「LC MAGIC™ ノーマルブラック」が組み込まれたガラスを自動車のサンルーフなどに搭載することで、可動式のシェードを使用することなく、電源ONの時には開放的な居住空間を、電源OFFの時には遮光性を備えたプライバシー空間を、瞬時に実現します。モーターや可動部品を必要としないため、車体の軽量化と車内の居住性向上の両立が可能となります。

今後、「ノーマルブラック」の量産化技術を2023年度末までに確立し、2024年度からの量産と、モビリティ業界向けのサンプル出荷を開始します。



液晶調光フィルム「LC MAGIC™ ノーマルブラック」の自動車への搭載イメージ(CG)
左：電源ON時(可視光線透過率43%)、右：電源OFF時(同5%)

ESG 環境 (Environment)、社会 (Social)、ガバナンス (Governance) 関連の取り組み

1月23日 紙製アンテナ基材の環境配慮型NFCタグラベルを販売開始 **[5]**

1月25日 ファミリーマートのお菓の店頭受け渡しサービス
「ファミマシー」対象店舗を約4,500店舗に拡大

2月 2日 医療ビッグデータ活用を進めるICIを子会社化 **ESG**

2月 2日 「第19回LCA日本フォーラム表彰」で『経済産業省 産業技術環境局長賞』を受賞

2月 9日 AIによるマーケティング運用を自動化

3月 3日 インターナルカーボンプライシング制度を導入 **ESG**

3月 9日 持株会社商号を「TOPPANホールディングス株式会社」に決定

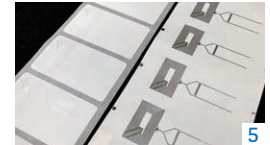
3月14日 施設内の異常音を検知する収音センシングシステムを開発 **[6]**

3月15日 2年連続で「CDP2022 サプライヤー・エンゲージメント・リーダー」に選定 **ESG**

3月17日 チェコに透明バリアフィルム生産拠点を新設



4



5



6

2023年3月17日発表

チェコに透明バリアフィルム生産拠点を新設

当社は、透明バリアフィルム「GL BARRIER」の生産工場をチェコ共和国へ新たに開設、2024年末の稼働開始を予定しています。本工場の稼働により、欧州市場からの環境配慮型パッケージの需要に対応し、本製品の生産力を強化します。本製品は、パッケージの脱アルミ化やリサイクル適性に優れたモノマテリアルパッケージ供給などに貢献する、優れた環境適性を持ち、これまで以上にグローバルへ拡大させるべく、欧州への工場開設を決定しました。

また、本工場は環境配慮型の工場です。今回の新工場開設により、日米欧3拠点生産体制が確立され、これまで以上にグローバルにSX (Sustainable Transformation) ビジネスを加速させていきます。

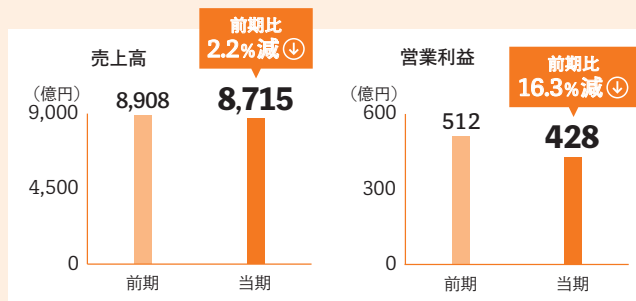
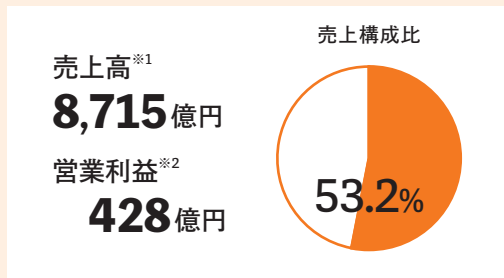
当社は、本製品のグローバル展開を加速し、2025年度までに海外パッケージ関連事業で売上高1,500億円をめざします。



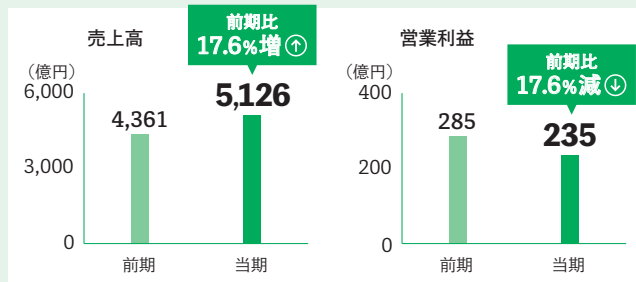
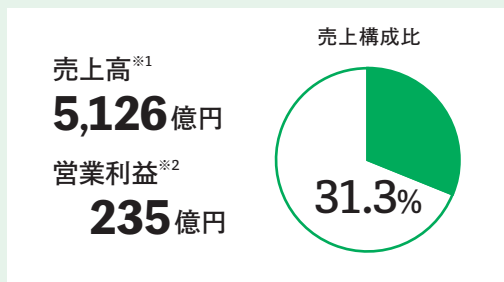
チェコ工場外観 (イメージ)

セグメント別概況

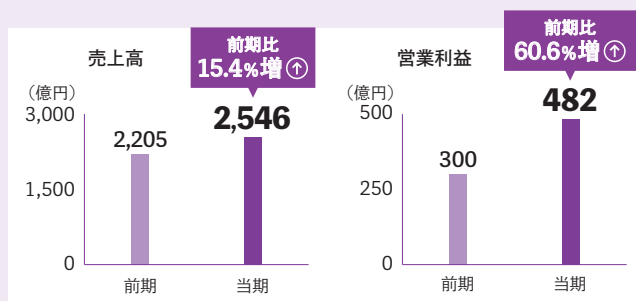
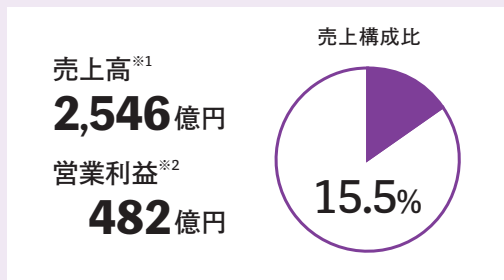
■ 情報コミュニケーション事業分野



■ 生活・産業事業分野



■ エレクトロニクス事業分野



※1 外部顧客への売上高 ※2 全社費用調整前の数値で計算しています。

セキュア関連では、帳票類の電子化などによりビジネスフォーム関連が減少したものの、ICカード関連が増加したことなどにより、前年を上回りました。コンテンツ・マーケティング関連では、ペーパーメディアやSP関連が減少したものの、ゲームカードや株式会社BookLiveによる電子書籍関連事業、Web広告運用などのデジタルマーケティング関連の増加により、前年を上回りました。BPO関連は、デジタルとオペレーションを組み合わせたハイブリッドBPOの拡販に努めたものの、昨年度の大型案件の反動により、減収となりました。以上の結果、情報コミュニケーション事業分野全体では前期比で減収減益となりました。



ICカード

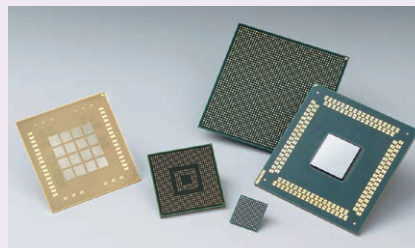
パッケージ関連では、国内は食品向けを中心に需要の増加やサステナブル包材の拡大により前年を上回るも原燃料価格高騰の影響を受けました。海外は米国やタイの軟包装子会社に加え、インドネシアを中心に好調に推移しました。建装材関連は、国内は高意匠・高機能化粧シートの販売が拡大し前年を上回りました。海外は、欧州でのインフレや北米の住宅金利上昇による需要減の影響があるものの化粧シートの販売増や価格改定により前年並みでした。高機能関連は、インドのToppan Speciality Films社が貢献し増収となりました。以上の結果、生活・産業事業分野全体では前期比で増収減益となりました。



インドネシア工場

半導体関連では、フォトマスクは、5G・AI、車載向けなどの堅調な半導体需要を背景に、増収となりました。高密度半導体パッケージ基板のFC-BGA基板は、業界最高水準の品質と技術を武器に、大型・高多層の高付加価値品が、データセンターやサーバー向けなどを中心に好調に推移しました。

ディスプレイ関連では、テレビ向けなどの需要が減少した反射防止フィルム、及び構造改革を進めたカラーフィルタが減少し、前年を下回りました。以上の結果、エレクトロニクス事業分野全体では前期比で増収増益となりました。



FC-BGA基板

株式情報

2023年3月31日現在

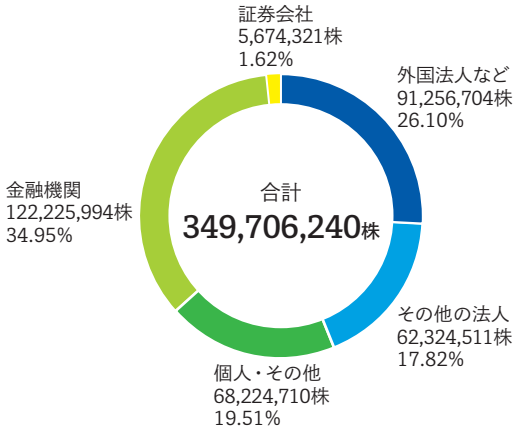
発行済株式数 349,706,240株
株主数 37,001名

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	50,398	15.35
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	17,597	5.36
日本生命保険相互会社	15,002	4.57
東洋インキSCホールディングス株式会社	9,492	2.89
第一生命保険株式会社	8,239	2.51
従業員持株会	6,798	2.07
株式会社講談社	6,710	2.04
凸版印刷取引先持株会	5,999	1.83
ステート ストリート バンク ウェスト クライアント トリーティー 505234	4,575	1.39
エスエスビーティーシー クライアント オムニバス アカUNT	4,309	1.31

※自己株式は、上記大株主から除外しています。
※持株比率は、発行済株式の総数から自己株式数を控除して計算しています。

株式分布状況(所有者別)



※自己株式21,399千株は「個人・その他」に含まれています。

会社概要

2023年6月29日現在

社名 凸版印刷株式会社
本社事務所 〒112-8531
東京都文京区水道1-3-3
電話：03-3835-5111(代表)
URL：https://www.toppan.co.jp/
会社設立 明治33年1月17日
株式会社に組織変更 明治41年6月4日
資本金 104,986,430,314円
従業員数 連結 53,722名

取締役および監査役

代表取締役社長	金子 眞 吾	社外取締役	野 間 省 伸
代表取締役社長	鷹 秀 晴	社外取締役	遠 山 亮 子
代表取締役副社長執行役員	坂 井 和 則	社外取締役	中 林 美 恵 子
取締役専務執行役員	齊 藤 昌 典	常任監査役	萩 原 正 敏
取締役常務執行役員	黒 部 隆	監 査 役	久 保 園 到
取締役	添 田 秀 樹	社外監査役	垣 内 恵 子
		社外監査役	笠 間 治 雄
		社外監査役	河 戸 光 彦

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日	1単元の株式の数	100株
定時株主総会	毎年6月	公告の方法	電子公告により、当社ウェブサイト (https://www.toppa.co.jp/)に掲載 いたします。 なお、やむを得ない事由により電子公告 によることができない場合は、官報に掲載 いたします。
株主確定基準日	定時株主総会・期末配当 3月31日 中間配当を行う場合 9月30日 その他必要ある場合は、あらかじめ公告いたします。	上場金融商品取引所	東京証券取引所
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社	証券コード	7911
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部		
・お問い合わせ先	TEL 0120-232-711 (フリーダイヤル)		
・郵送先	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号		

〈株式に関するお手続きのご案内〉

お手続き・ご照会の内容	対象	お問い合わせ先
ご住所・お名前などの変更 単元未満株式の買取・買増請求 配当金の受取方法・振込先のご変更 マイナンバーに関するお届出・お問い合わせ	証券会社に口座を開設されている株主さま 証券会社に口座を開設されていない株主さま (特別口座)	口座を開設されている証券会社 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 0120-232-711 (フリーダイヤル)
郵送物の発送などに関するご照会 支払期間経過後の配当金に関するご照会 株式事務に関する一般的なお問い合わせ	すべての株主さま	

Information

▶ 印刷博物館からのお知らせ

予告 1階P&Pギャラリー企画展

「絵本『あんぱんまん』 ～はじまりのアンパンマン～」

絵本『あんぱんまん』(フレーベル館)の誕生50周年を記念し、絵本の原画(複製)や印刷本を展示、時代を超えて愛されるその魅力にせまります。

会 期 2023年7月22日(土)～9月24日(日)
開館時間 10:00～18:00
休 館 日 毎週月曜日(ただし、9月18日は開館)、9月19日(火)



- 開催中の
企画展示
- P&Pギャラリー「グラフィックトライアル2023 -Feel-」
会期：開催中～2023年7月9日(日)
 - 地下1階展示室 常設展

印刷博物館ウェブサイトURL <https://www.printing-museum.org>

▶ 株主優待カレンダーについて

当社では、2023年3月末の時点で5単元株(500株)以上をお持ちの方でお申し込みをされた株主の皆さまへ、株主優待カレンダーを進呈しています。今回は「現代の芸術 日本絵画―池田遙邨」と題し、自然から受けた感動と喜びを、造形性に優れた構図で自由に表現した池田遙邨の作品をお楽しみいただけるカレンダーを予定しています。

お申し込みいただいた株主さまには、12月上旬頃までにお手元に届くよう発送する予定です。カレンダーをご希望の方は、「定時株主総会招集ご通知」に同封いたしました「株主優待カレンダー申込はがき」に必要事項をご記入のうえ、ご返送ください。

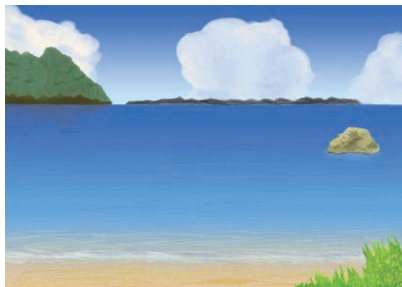


2024年版株主優待カレンダー
(デザインは変更になる場合があります。)

申込締切 2023年9月29日(金) 必着

表紙について 「可能性アートプロジェクト」の作品より

凸版印刷は、障がい者によるアート作品の付加価値化で自立支援を旨とする「可能性アートプロジェクト」の取り組みを進めています。今号より表紙の画像は、本プロジェクトからの作品を掲載いたします。



「懐かしい景色」

作者のことば

子どもの頃に夏休みに家族で行った和歌山の海をふと思い出し、頭に浮かんだ景色を絵にしました。懐かしい気持ちになりました。

自己紹介
くみばんつ

生まれつきの脳性麻痺で手が使いづらいため、足を使って作業などしています。今回は足でペンタブを使って描きました。